

2023年7月

白井なおこ レポート VOL.19

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日：2023年7月10日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12中央日石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



ステーションのあるところなら全国どこでもレンタルができる「シェアサイクル」の実証実験が始まっています。詳細は市のHPで検索ください。

学級支援員の拡充を！ ～インクルーシブ教育をすすめていくために～



「学級支援員を増やして欲しい」という切実な声があります。特別支援教育のパイオニアとも言われている日野市ですが、インクルーシブ教育をどう進めていこうとしているのでしょうか。学級支援員の拡充、教員研修の充実、作業療法士(OT)の活用、幼保から小への更なる連携などの提案を盛り込みながら、質問しました。

インクルーシブ教育ってなに？

インクルーシブ教育とは「多様な子どもが地域の学校に通うことを保障するために**教育を改革するプロセス**」とユネスコでは定義しています。

一方、文部科学省が進めているものは、特別支援教育の既存の枠組みを維持したまま、それに合わせるために子どもを支援するというものです。

ともに共生社会の実現をめざすものですが、そのアプローチには大きな隔たりがあります。

日野市では通常学級での特別支援教育のあり方「ひのスタンダード」を通して実現していくものとしていますが、定義や方向性が曖昧に感じます。

学級支援員の役割の見直し・拡充を

第6次日野市特別支援教育推進計画のパブリックコメントには、学級支援員を増やして欲しいという声が多く寄せられていました。学級支援員とは、支援を要する子どもの介助等を担う他、クラス全体を見守る役割もあります。日野市では1日4.5時間の勤務で学校ごとに1～3名で配置されています。

子どもの声にならないSOSを汲み取り、手一杯の教員をサポートする**子どもと教員のパートナー**で

あると、現場を視察して感じました。特に新一年生は朝の支度など、最初からきちんと伝える支援により**その先の成長の土台となると**、長年現場にいる学級支援員の方より伺いました。

研修制度も含め、さらに子どもにとって十分な支援に繋がるよう、見直しを求めました。

作業療法士(OT)の活用を

専門家との連携の点では、作業療法士(OT)の活用を提案しました。学校 OTはまだあまり知られていませんが、アメリカではどの公立学校にも常勤し、**クラス全体の多様性への相互理解を深めること**に大きな役割を果たしているといいます。教育委員会ではその視点は十分に取り入れているといいますが、まずは先進事例の視察からでも、取り組みを求めました。

教育長からは「大事な視点をもらった」、市長からは「財政面から支援していきたい」と前向きな答弁がありました。インクルーシブ教育は**理念の共有とそれに伴う体制**が必要です。これからも日野市子ども条例の理念も踏まえつつ、教育を改革するプロセスについて、皆さんと考え続けていきたいと思えます。

